

次の文を読み、問1～3に答えよ。

72歳の男性。AFP高値の原因精査目的に来院した。

現病歴：慢性B型肝炎で近医にて治療を受けていた。

既往歴：高血圧，糖尿病で加療中。

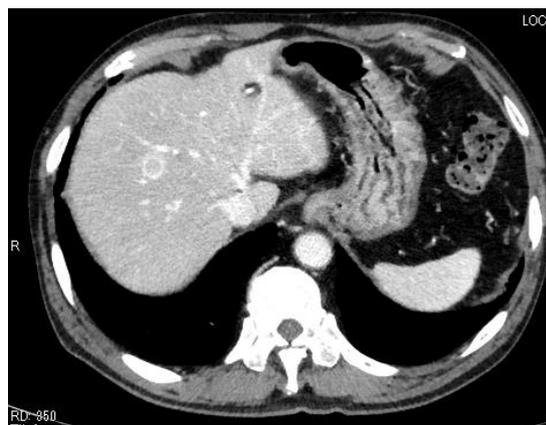
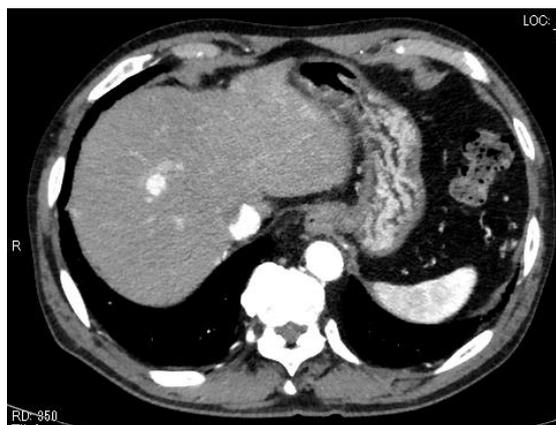
生活歴：飲酒は1日1合を50年間。喫煙は1日10本を2年間。

現症：意識は清明。身長164.5 cm，体重56 kg，体温36.4℃，脈拍74/min，血圧122/70 mmHg。腹部は平坦・軟で圧痛を認めない。下腿に浮腫を認めない。

検査所見：血液所見：白血球 6030/ μ L，赤血球 483 万/ μ L，Hb 15.8 g/dL，Ht 45.7%，血小板 13.1 万/ μ L，プロトロンビン時間 102%。血清生化学所見：総蛋白 8.0 g/dL，アルブミン 4.4 g/dL，AST 35 IU/L，ALT 29 IU/L，LD 163 IU/L，ALP 179 IU/L， γ -GTP 76 IU/L，ChE 351 IU/L，尿素窒素 18 mg/dL，クレアチニン 0.66 mg/dL，総ビリルビン 0.7 mg/dL，Na 137 mEq/L，K 4.6 mEq/L，Cl 105 mEq/L，AFP 3336 ng/mL(基準10以下)，PIVKA-II 716.6 mAU/mL(基準40以下)。免疫学所見：HBs抗原陽性，HCV抗体陰性。腹部ダイナミックCT画像を次に示す。門脈本幹には閉塞を認めない。

(動脈相)

(門脈相)



問1 本症例に当てはまる疾患はどれか。

- a 肝細胞癌
- b 肝内胆管癌
- c 転移性肝癌
- d 肝血管腫
- e 肝膿瘍

問2 造影CTと腹部血管造影の画像を以下に示す。画像所見として最も適切なものはどれか。



- a 腹膜播種
- b 腹水
- c 脈管浸潤
- d リンパ節転移
- e 大腸癌

問3 本症例に対する治療として適切なものはどれか。

- a 外科的切除
- b 緩和療法
- c 肝移植
- d 全身化学療法
- e 放射線療法

次の文を読み、問1～3に答えよ。

31歳男性。下腹部痛を主訴に救急外来を受診した。

現病歴：Crohn病に対して当院で治療をしていたが、通院を自己中断していた。

現症：身長 171.9 cm, 体重 53.6 kg, 体温 36.8°C, 脈拍 85/分, 血圧 100/52 mmHg. 腹部

部：軽度膨満, 下腹部に圧痛を認める。金属音を聴取する。

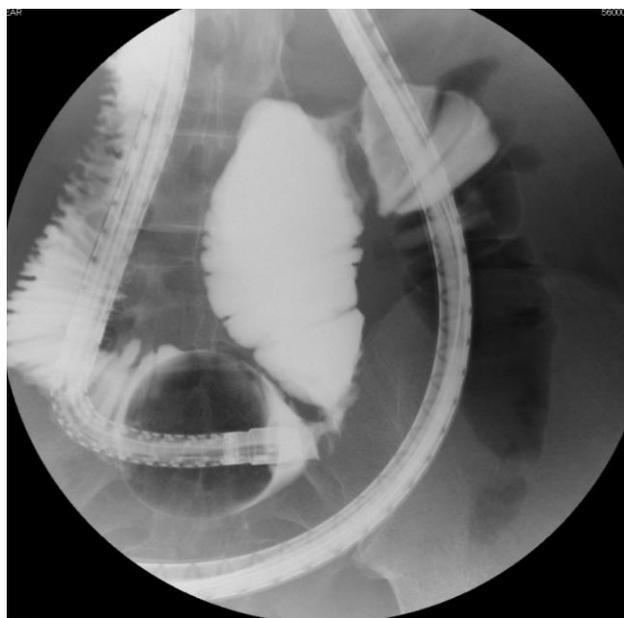
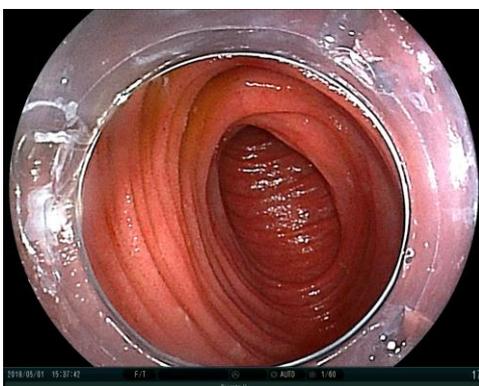
検査所見：血液所見：赤沈 19mm/1時間, 白血球 10350/ μ L, 赤血球 502万/ μ L, Hb 13.2 g/dL, Ht 39.2%, 血小板 48.0万/ μ L. 血清生化学所見：総蛋白 7.1 g/dL, アルブミン 3.4 g/dL, 総コレステロール 151 mg/dL, LDL コレステロール 92 mg/dL, 中性脂肪 81 mg/dL, BUN 16 mg/dL, Cre 0.68 mg/dL, Na 131 mEq/L, K 4.1 mEq/L, Cl 97 mEq/L, Ca 9.4 mg/dL, CRP 5.8 mg/dL. 腹部単純X線写真(立位)を以下に示す。



問4 本症例の病態として最も疑わしいものはどれか。

- a 単純性イレウス
- b 中毒性巨大結腸症
- c 上腸間膜動脈閉塞症
- d S状結腸軸捻転
- e 消化管穿孔

問5 絶食, 補液により症状は軽快した. 精査のため, 小腸内視鏡と小腸X線造影を行った. 画像を以下に示す. 所見として正しいものを2つ選べ.



- a 鉛管様腸管
- b cobble stone appearance
- c skip lesion
- d 小腸狭窄
- e 輪状潰瘍

問6 本症例に行う治療として適切でないものを選べ.

- a 成分栄養剤
- b インフリキシマブ
- c 免疫抑制剤
- d 小腸部分切除
- e 金属ステント留置

解答

問 1. a

問 2. a

問 3. d

問 4. a

問 5. c, d

問 6. e